

障害者支援施設 鹿野第二かちみ園

1 基本方針

様々な障がい特性を理解し、その特性に対する専門性を高めるとともに、一人ひとりの個性を尊重することで、利用者が健やかにそして自らの意思をもって自分らしい生活を営むことができるように援助していく。

また、社会参加を促進するとともに、地域社会に開かれた施設運営を目指す。

2 利用者の状況（令和7年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和6年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数	
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別				死亡					
					地域移行		家庭復帰	施設移管		契約解除(入院等)				
					GH	アパート等								
生活介護	60	64	1	4	0	0	0	1	1	2	14,529	90.1%	61	
施設入所支援	60	55	1	4	0	0	0	1	1	2	18,353	83.8%	52	
5 年度	生活介護	60	68	0	4	0	0	0	2	0	2	15,676	96.8%	64
	施設入所支援	60	60	0	5	0	0	0	3	0	2	20,228	83.8%	55

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	3	8	24	35
女性	0	0	0	0	1	7	18	26
計	0	0	0	0	4	15	42	61

②施設入所支援

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	0	2	7	22	31
女性	0	0	0	0	0	3	18	21
計	0	0	0	0	2	10	40	52

3 事業の実施状況

（1）支援付き意思決定の促進

ア 社会生活における場面については、個別支援計画会議の中で、イラスト・写真等を用いて、住居や日中の生活場所について聞く機会を設けた。結果、2名の方がグループホーム移行を希望され、現在本人に合った住まいを模索中。

イ 日常生活における場面では、複数の余暇の選択や衣類の選択、買い物場面では週2回移動販売車に訪問してもらい、食べ物、飲み物の選択・購入、インターネットショッピングによる欲しいものの選択・購入、極力買い物外出や食事外出の機会の提供を行い、自らの意思で選んで購入する事ができるよう支援を行った。

ウ 意思を推定する力を推進するに当たり、その方の生活史、病歴、性向、強み、弱み、好きなこと、苦手なことなどを把握した上で、応用行動分析、絵カード交換式コミュニケーションシステム、コミュニケーションカード、選択カードなどの手法を使うことで意思の推定に取り組んだ。いずれも本人の意思を中心に置いた支援を心がけた。

(2) 利用者支援の専門性の向上

ア 行動障がいのある方への専門的支援

毎月1回行動障がい部会による内部検討会を開催するとともに、3ヶ月に1回外部のスーパーバイザーを招聘し、助言を参考に行動障がいがある方の課題行動の軽減や自立に向けた支援方法の検討を行った。

太田ステージによる評価も継続し、定期的なワーク課題の見直しを行った。

イ 身体障がいのある方やフレイル状態の方への専門的支援

・理学療法士がリハビリテーション計画を作成し、エアロバイク、振動マシンなどの運動器具を使用し個々に応じた機能訓練、集団体操、生活リハビリ、ウォーキング等、随時見直しながら利用者の機能低下防止やフレイル予防に取り組んだ。

・また、摂食嚥下機能の低下防止のため、定期的に外部の言語聴覚士に嚥下機能の評価を依頼し、適切な食事形態、姿勢の保ち方、健口体操等の助言をいただき実践している。

ウ 精神障がいのある方への専門的支援

・定期的な精神科医の往診時に医療相談しながら、その人の障がい特性や周辺症状に応じた支援に努めた。

・また、必要に応じて多職種交えて検討会を行い、共通認識・統一支援に努めた。

エ その他の支援（アート活動）

・日々の活動で作成した作品を年2回会場を変えて展示した。とりぎん文化会館での「いろいろ作品展（9/6～9/13）」は約400名の来場者があり、何度も足を運んで下さる方も居られ、都度「何度見ても素敵な作品で感動しました」とのコメントも頂いた。また、中電ふれあいホールでも作品展（2/27～3/3）を開催し、県外からの来場者や、「いろいろ作品展」を毎回楽しみにして下さっている方も居られた。

・新規に鳥取市主催のきらめきアート展（9/1～9/15）に参画、昨年に続きフクシ×アートWEEKs2024（10/29～11/24）に参画したほか、今年度も継続して鳥取県立バリアフリー美術館（バーチャル美術館）へ複数の作品を提供した。

・更に、「山陰ご当地フォントプロジェクト」事業では、株式会社ファミリーマートと契約し、ファミプリントに登録して頂き、ご利用者のアート作品がデザイン化された「鹿野第二かちみ園ステッカー」が販売された。（11/1～1/31）第二弾も検討中。

・今年度は取材も多く、障がい者アートを幅広く知ってもらえる機会に繋がった。

(3) 職員の専門性の向上とメンタルヘルスの推進

ア OJTの推進

園内研修では、定期的なスーパービジョンのほか、「権利擁護・虐待防止（身体拘束含む）」、「BCP訓練、BCP研修」、「食中毒予防」、「リスクマネジメント」、「救急救命講習」、「ハラスメント防止」、「意思決定支援」に関する研修等を実施。また、eラーニングの活用を行い知識を深め、専門性の向上に繋がった。

イ Off-JTの推進

「虐待防止研修」「強度行動障がい支援者養成研修」等、専門性に直結するような研修を優先しながら可能な限り参加した。

ウ SDSの推進

国家資格取得の推奨に努め各種情報を提供し取得を促している。社会福祉士1名、精神保健福祉士1名の合格者があった。

エ チューター制度の推進

昨年度中途採用者2名を対象にチューター制度実施。半年間の振り返りを実施した。

オ 衛生委員会や産業医との連携

「メンタルヘルス」研修は外部講師を招聘し、【一人ひとりがいきいきと働ける安心・安全な職場環境づくりをするために】と題して風通しの良い職場づくりを学び人材の定着に努めた。

(4) 公益的な取組

地域生活支援拠点等との連携に努めた。

(5) 経営改善・基盤の確立

ア 入所定員の見直しを視野に入れながら、現状の1.7:1配置の維持を目指す。

・生活介護(60名定員) 90.1% ・施設入所支援(60名定員) 83.8% ・短期入所 13.4%

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
(実績なし)			

(2) ボランティアの受入実績

鹿野町日赤奉仕団(繕い物)、職員OB(草刈り) [延べ56人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 3名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	34	146	4	17
日中一時支援事業	0	0	0	0